

2012年4月

第60号

発行所
高野山大学図書館
閲覧室

それゆけ！ としよかんだより



ご入学おめでとうございます！

『それゆけ！としよかんだより』は毎月30日発行の図書館報です

本とのかかわり

図書館長 下西 忠

ところでみなさん、本を読んでいますか。毎月本代にどの程度費やしていますか。最近本を読まない学生が増えているとよくいわれます。しかし、大学生と本とのかかわりはなにも四年間に限るものではなく、卒業後の長い人生において、生きるうえでさまざまな糧になるはずです。最近ある学生に「ちかごろ読んだ小説がある？」と聞いたら、「小説ってなんですか？」という言葉が返ってきた。私は驚いた。この学生の生活のなかに小説の存在がないのだと思った。たしかに小説とは何かという概念は一言ではいえないかもしれないが、それにしても私は寂しい思いをしたことは事実である。またある学生は「先生、私は本をたくさん買いますよ」と言った。感心な学生だと思って聞いてみたら、その本とは雑誌のことであった。本と雑誌は同じですかと聞きたくしたが、もうそれ以上のことを言う元気がなくなった。みなさんには本とのかかわりを是非多く持っていただきたいと願っています。

いうまでもなく、大学は、高校と違って、学生自らの意志で主体的、積極的に学修する場であります。教室で先生方の授業を受けるだけではなく、教室外での予習、復習や、演習などで発表するための準備、またレポートの作成、卒業論文の作成などで自学自習することが大学生は求められています。それらの準備のために図書館があります。

本学の図書館は、そうした学生のみなさんの自学自習にとって必要な書籍・雑誌、映像資料などを揃え、みなさんの利用をお待ちしています。密教学、仏教学、国文学、歴史など大学での学問研究と深く結びついた専門書がそろえられており、宗教学や国文学の研究者たちが、ここに保管された資料を求めて国内からはもちろん海外からも訪れています。

本学の学生は貴重な古典籍を直接手にとって見ることができます。数多くある大学でも、それができる大学はそう多くはありません。直接手に取って「これが平安時代の書物なのか」「これが鎌倉時代の活字本なのか」というように「時代の文化」を実感してほしいのです。図書館は、これら貴重な資料を保護するとともに、広く歴史や宗教、文学を学ぶ人々の閲覧利用に供すべく、資料のマイクロフィルム化、デジタル化が順次進めています。

さて、かたい話はこれまでとして、みなさんは図書館を今後どのように利用しますか。確認の意味も含めて少し触れておきます。

(1) 大学生として勉学に励みたい人に

予習、復習、テスト勉強、さらにレポートの作成、卒業論文の作成などを。

(2) 気分転換したい人に

高野山は都会と違って「遊ぶ」ところがないので、図書館で空き時間を有意義に過ごしていただきたいと思っています。閲覧室に備えている新聞を読むのもいいし、芥川賞や直木賞を受賞した作家の小説を閲覧室で読むのもいいでしょう。授業の合間のリフレッシュを図書館で。

(3) 卒業後の将来を気にする人に

社会についての情報を図書館で集めてみる。学生サポート課とは異なる観点で図書館を利用するのもいいかも。

館蔵古写真紹介 一本学旧校舎・図書館閲覧室一

図書館員 木下浩良

前々号において、旧制大学時代の本学の講堂が仮講堂であって、昭和34年(1959)に焼失するまでついに建造されなかったことを述べた。ここに紹介する本学の旧校舎についても、同様であった。図書館が竣工した翌年の昭和4年(1929)に完成したのが旧校舎であったが、実は仮校舎であった。講堂とは違い、校舎は本学百周年記念建設の現校舎が完成する昭和61年(1986)まで使用された。

大正15年(1926)、本学は全国で37番目の旧制大学となった。和歌山県下では唯一の大学で、近畿地区では同志社・龍谷・大谷・立命館・関西大学について6番目にできた私立大学であった。この時、本学学生の制服は法衣から詰襟の学生服に角帽、という洋装に変わった。

ただ、本学のその時のハード面での状況は、明治19年(1886)開校の古義大学林時代のままの校舎・図書室・学寮が、現在の金剛峯寺の奥殿付近にあった。これでは十分な教育が受けられないと、学生たちは「大門へ行け」を合言葉に、大門において学生集会を開いて同盟休校を執行し、本学の高野山下への即時移転を決議するに至った。

この学生運動に対応してできたのが、今の図書館であり、旧校舎であった。本学当局は高野山上における大学の充実を、学生と約束するのである。図書館は、高野山で初めての鉄筋コンクリートの洋風建築であったが、校舎については木造であった。図書館の設計は関西近代建築の父とたたえられた京都帝大教授の武田五一^{たけだごいち}博士で、校舎についても武田博士と、同じ京都帝大の建築学教室で古建築が専門の天沼俊一^{あまぬましゅんいち}教授のお二人による設計であった。施工は、高野山の彦組により完成する。

本学教授の堀内寛仁^{ほりうちかんにん}先生は「小学校の時から鉄筋の校舎で育った私には大学の校舎は、誠に小さい木造二階建てで唾然とした。昭和元年に金堂が焼失したため、お金がそちらに廻り、一時の仮校舎であるという事であったが、何のかんかと言いながら60年もの間我々の校舎でありつづけた」と述懐されていた。広い教室は、冬はだるまストーブが一台あるだけで寒く、夏は窓を開けようとしても開かず、廊下は歩くたびにギシギシと鳴る鶯張り?の旧校舎であったが、今振り返ると懐かしい。

図書館閲覧室の古写真は、図書館創建当時のものである。当然のことながら館内は現状と変わらない

が、学生服姿の利用者が木製の机の上に本を積読している。旧制大学時代の本学学生の様子が垣間見られる。この写真にある木製の机も、昭和57年(1982)頃まで図書館で使用されていた。



オススメ図書

「僕が旅に出る理由」請求記号:680/ニ/7-1 資料ID:000100403

本を開くと、そこには「退屈な時間の中で満足しないままの自分であるより、世界へ、一歩飛び出していい方向になのか、悪い方向になのか、分からなくても変わった方がきっと、マシだ。」という言葉があります。旅に出た理由は人それぞれあるけれど、大学生を送るなかで、悩み、模索し何かを求めて一歩踏み出し旅をした100人の大学生が見つけた本です。写真もたくさんあるので開いて見るだけでも楽しいですよ!

この本は閲覧室内大学生活応援コーナーにあります!

(編集後記)
皆さんにとって図書館が身近な場所になってくれたら嬉しいです。
(石原)

発行所

〒648-0280
和歌山県伊都郡高野町高野山385
高野山大学図書館 閲覧室
Tel:0736-56-3835
Fax:0736-56-5590
E-mail service-lib@koyasan-u.ac.jp



2012年4月の開館予定表

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	1	2	3	4	5

2012年5月の開館予定表

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
29	30	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	1	2

	9:00-18:00		13:00-18:30
	13:00-21:30		9:00-21:30
	9:00-18:30		閉館
	9:00-17:00		